

各 位

東 京 都 千 代 田 区 麴 町 三 丁 目 2 番 4 号  
 会 社 名 株 式 会 社 ス リ ー ・ デ ィ ー ・ マ ト リ ッ ク ス  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 岡 田 淳  
 (コード番号：7777)  
 問 合 せ 先 取 締 役 新 井 友 行  
 電 話 番 号 03 (3511)3440

**平成 30 年 4 月 期業績予想の修正及び営業外収益並びに特別損失  
 の計上見込みに関するお知らせ**

最近の業績動向を踏まえ、平成 29 年 6 月 14 日付で公表いたしました平成 30 年 4 月 期（平成 29 年 5 月 1 日～平成 30 年 4 月 30 日）の業績予想を下記のとおり修正し、また営業外収益及び特別損失を計上する見込みでありますので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 平成 30 年 4 月 期通期の業績予想数値の修正（平成 29 年 5 月 1 日～平成 30 年 4 月 30 日）

【連結】

(単位：百万円、%)

	事業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	304 ～2,354	△1,675 ～630	△1,675 ～630	△1,700 ～620	円 銭 △78.88 ～28.77
今回修正予想 (B)	220	△1,830	△1,704	△1,814	△78.99
増減額 (B - A)	△84 ～△2,134	△155 ～△2,460	△29 ～△2,334	△114 ～△2,434	—
増減率 (%)	△27.7% ～△90.6%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 4 月 期)	615	△1,240	△1,270	△1,392	△64.62

※今回修正予想値に関しましては、レンジ形式予想値からの増減額及び増減率を示しております。

2. 業績予想修正の理由

当社グループの平成30年4月期の業績予想については、事業収益として吸収性局所止血材（以下「本止血材」）の製品販売と契約一時金及びマイルストーンペイメント（以下「契約一時金等」）を計画しており事業収益・各利益ともに下限・上限を定めたレンジ形式による連結業績予想としておりましたが、下記を主要因として業績予想を修正することといたしました。

主に本止血材の製品販売304百万円（内、欧州：219百万円、アジア、オセアニア：65百万円、中南米、

ご注意： この文書に記載した当社の業績予想に関しては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

カナダ：19百万円）及び販売提携に伴う契約一時金等2,050百万円（内、韓国でのCEマーキング登録承認に伴う一時金50百万円、欧州での販売提携に伴う契約一時金2,000百万円）の事業収益をレンジ形式で予想をしておりましたが、製品販売は218百万円（内、欧州：約148百万円、アジア、オセアニア：約68百万円、中南米、カナダ：約2百万円）に加え、その他研究試薬販売：約2百万円となる見込みで、契約一時金等の計上は見込まない事業収益予想に修正し、費用及び利益計上額の修正をしております。また主な修正理由は下記①～⑤の項目に記載しております。

なお、前期実績の事業収益615百万円の内訳は製品販売107百万円、契約一時金等508百万円となっており、当期は契約一時金等の計上は見込めないものの、製品販売については前期比104%増となる見込みです。

#### ① 本止血材の製品販売計画との差異に伴う修正

製品販売に関して当第3四半期末時点で、欧州ではフランスの大手医療機器メーカーであるPENTAX社の販売が開始され、アジア、オセアニアではオーストラリアにおいて大手医療機器メーカーであるMaquet社の販売も計画に比し順調に推移し、販売計画184百万円に対し167百万円と計画比は約91%で推移しておりました。当第4四半期は販売計画120百万円以上を見込んでおりましたが、期末にかけてオーストラリアでは通期の販売計画を上回る見込みとなったものの、主に欧州では一部の地域において現地代理店の統廃合が生じたことや、現地代理店の戦略変更が生じたため、一部の現地代理店からの発注額（69百万円）が来期となった要因等もあり、通期販売計画比で68%と乖離が生じる見込みとなりました。計画との乖離を補うために主要国以外の地域において新規代理店を獲得しましたが、今期中の発注には至らず、通期業績予想を修正しております。

#### ② 本止血材の販売権許諾契約の遅延に伴う修正

契約一時金等に関しては、欧州全域への販売を目的とした販売提携につき候補先（対象全域に販売網・プロモーション機能を有する企業）を3社に絞り、当期末を目途として契約締結を計画しておりました。欧州での販売や使用実績データの取得が課題となっている状況に変更はありませんが、使用実績のデータの積み上げとその検証に時間を有している状況です。また一方で、一部候補先と後出血予防材（欧州でCEマーキングの承認申請中）を含めた契約を協議していることもあり、当期末までの契約締結は難しいと判断したことから、当期中での契約一時金2,000百万円の計上が見込めず、事業収益の予想を修正することとなりました。

また韓国の契約一時金等は当局の審査が継続中であり、当期での審査が完了しないことから、登録承認に伴う契約一時金の計上が出来ず通期業績予想を修正しております。

#### ③ 事業収益の修正による費用及び利益計上額の修正

当社グループの通期費用及び各利益額に関しては、当初の予想レンジ下限で原価は約134百万円、売上総利益を171百万円と計画しておりましたが、原価は製造委託費の一時的な増加から約180百万円と増額になり、売上総利益は約40百万円と当初予想の売上総利益に対し131百万円の減少となる見込みです。

また当初の予想レンジ下限で販売費及び一般管理費は1,094百万円、研究開発費は496百万円と計画しておりましたが、主に欧州における販売・マーケティング活動の費用約90百万円の増加や、第三者割当増資

ご注意： この文書に記載した当社の業績予想に関しては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

関連の費用約50百万円の増加により販売費及び一般管理費は約1,354百万円となり、研究開発費は欧州の次世代止血材の開発に伴う試験費用により約20百万円増加の約516百万円となる見込みです。また営業利益は当初予想の△1,419百万円から△1,830百万円と当初予想を下回る見込みとなりました。

④ 営業外収益の計上見込みについて

当社グループは、平成30年4月期第4四半期連結累計期間（平成29年5月1日～平成30年4月30日）に約126百万円の為替差益を営業外収益として計上する見込みです。これは主に当社連結子会社が保有する外貨建て資産等の為替相場の変動により生じる評価替えによるものです。

⑤ 特別損失の計上見込みについて

当社グループは、前期末で有形固定資産及び無形固定資産の減損を行っております。資産内容は本止血材や歯槽骨再建材等の医療製品事業に関する検査機器、特許権及び特許実施権ですが、事業遂行の過程で相互に関連することから一つの資産グループと見做し一括の減損処理を行ったものです。当期も四半期毎に減損の兆候が生じた対象資産について、当期以降の収益性を見積り、対象資産の帳簿価額と回収可能性額を比較検討し、減損処理の判定を行っております。

平成30年4月期第3四半期連結累計期間（平成29年5月1日～平成30年1月31日）において当該期間に資産計上した固定資産71百万円につき減損処理を行いました。平成30年4月期第4四半期連結会計期間（平成30年2月1日～平成30年4月30日）についても当該期間に資産計上見込みの固定資産約37百万円の減損処理を検討しており、平成30年4月期第4四半期連結累計期間（平成29年5月1日～平成30年4月30日）に約109百万円の特別損失を計上する見込みです。

上記①から⑤の影響を考慮しまして、経常利益は△1,704百万円、純利益は△1,814百万円の予想を行っております。

なお、現段階におきましては、平成29年6月14日公表の「中期経営計画」への影響について精査中であり、来期以降に本件内容を踏まえた段階で公表させていただきます。

以 上

ご注意： この文書に記載した当社の業績予想に関しては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。